



磐二小だより

磐梯町立磐梯第二小学校
令和4年9月14日
第 10 号
発行責任者 近野 典男

☆教育目標「自己を拓き、共に生きる、健康で品性の高い子ども」

○自分から学びます ○共に磨きます ○互いに鍛えます

【スローガン】キラキラとひとみが輝く二小の子ども

がんばれ磐梯二小合奏部

明日9月15日(木)は、喜多方プラザにて全会津音楽祭(第二部合奏)が行われます。二小の全3~6年生による「合奏部」が4番(10:26~)に演奏します。夏休みも含め、一生懸命に練習を重ねてきて、特に最近のまとまりよさには感心して見ていました。この成果を発揮できるよう、まずは子どもたちが元気に参加できることを願うばかりです。

先週行った全体練習でのことです。3年のあるお子さんが、曲を演奏し終わってすぐに「楽しかったー」とつぶやきました。私はその言葉を聞いて、なんて素直なお子さんなのだろうと嬉しくなりました。そして、その言葉が出てた理由を想像して、改めて感心しました。指揮の小林教諭は、曲のイメージを丁寧に説明しながら指導しています。子どもたちは、どうしたらそのイメージを表現できるか考えながら演奏しています。このお子さんは、自分なりに一生懸命考えて演奏し、満足できる演奏ができたから、あのようにつぶやいたのでしょう。明日も全員が「楽しかったー」という気持ちで終わられるよう、そして、たくさんの拍手を受けて成就感を得られる機会となるよう願っています。

保護者の皆様におかれましては、体調管理を含め、これまでの取組に対してのご理解・ご協力を賜り、ありがとうございました。明日も楽器の積み下ろしや応援でたくさんの方々にお越しいただけるとのこと、感謝申し上げます。明日は録音や写真・動画撮影は禁止となりますが、その分しっかり子どもたちの様子を見とどけ、ブログや学校だよりで紹介していきますので、どうぞ楽しみにしてください。



学校の安全・安心のために 3

この度、児童の安全管理のために防犯カメラを設置していただきました。設置場所は高学年、中学年、低学年それぞれの昇降口と、ピロティ入口です。

これまでも施錠等で防犯対策を講じてきましたが、この度のカメラ設置により、安全・安心のための具体的取組を強化することができます。抑止力の観点から、防犯カメラ作動中のシールも各所に貼りました。

防犯教室等を活用しながら、安全な生活に対する子どもたち自身の意識を高めていくとともに、学校としましても毎日の生活について振り返り、安全・安心のためにできることについて常に必要な改善を図っていきなす。



めあて・目標のたて方

9月5日（月）の全校朝の会における校長からの話の中で取り上げた話題の一つが、めあて・目標のたて方の上手な児童がたくさんいたことについてです。

教室に掲示してあった中から、次の三つの例を紹介しました。

① 〈数字を入れる目標〉

「プリントやテストでまちがった漢字はしっかり5回以上直して、漢字のテストで100点を取る。」

「1日に1時間30分は体を動かす。」

② 〈「そのために」がある目標〉

「応用問題を得意にする。そのために、授業で先生の話をよく聞き、学んだことを難しい問題に生かして解けるようにしたい。」

「早ね早起きをする。そのために、やることを早めにやり、早くねて決まった時間に起きる。」

③ 〈将来の夢に向かっての目標〉

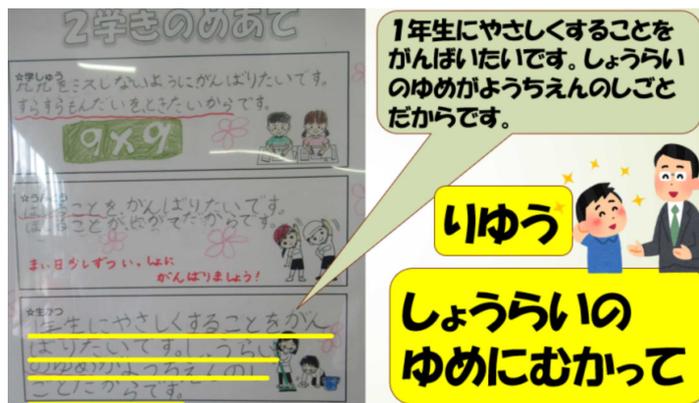
「1年生にやさしくすることをがんばりたいです。しょうらいのゆめがようちえんのしごとだからです。」

まず、①に関しては、数字が入ることで具体的な姿を思い描きやすくなります。振り返る時にも、ただ「がんばる」という表現より、できているかどうかを把握しやすくなります。

次に、②については、手立てを明確にしているという点ですばらしいです。6年生はどのお子さんもこのように表記できていましたので、さすがと思いました。

最後に、③は読んだ時に驚きました。今、キャリア教育の大切さがさげばれています。このように夢を思い描き、そのためにどのように学んでいけばよいのか考えることは素晴らしいことです。もちろん、夢は成長の中で変わっていったよいのですが、「今の時点での夢は」と言えるようになると頼もしいです。こうした姿はぜひ学校全体に広げていきたいと思い、紹介しました。

めあて・目標に対する意識が学校としてとても高まっていて嬉しく思います。ぜひ、それぞれが自分でたてためあて・目標を達成する喜びを味わうことができるよう、丁寧に見て励ましていきたいと思えます。



ちょっといい話 19

〈拍手をする様子から見える優しさ〉

9月1日（木）に下学年・上学年それぞれで校内水泳記録会を実施し、今年度のプールでの学習を終えました。

記録会では自分で参加種目を決め、自己ベストをめざしてがんばる姿がたくさん見られました。その中で、下学年・上学年ともに友だちを拍手で応援する姿がすばらしく、講評の中で一番にそれを伝えました。感染防止対策で声を出さないことにしていましたが、その代わりにプール全体に拍手が響き渡っていたことが嬉しかったのです。

自分ががんばっている時に、周りが無関心というのはとても辛いことだと思います。しかし、二小の子どもたちは、がんばっている友だちを見て一生懸命に応援することができます。あたり前の姿かもしれませんが、きちんとこういったことができるのは、友だちを大切にできる優しさが一人一人にあるからだと思います。

9月5日（月）の全校朝の会でも、このすばらしさを改めて全校児童に伝えました。

